



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信) (2020年12月②)



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「育ちの連鎖」

2学期が本日で終了しましたが、保護者の皆様には、まだまだコロナ感染の不安がある中で、園の取り組みにご理解ご協力いただき誠にありがとうございました。おかげで、様々な制限がある中でも充実した毎日を過ごすことができ、子どもたちが大きく育った2学期でした。

ゆり寿司、話し合い中



年長組の保護者の皆様は、お店屋さんに来てくださりありがとうございました。「本格的なお店。ここまでできるとは思っていませんでした。」「自分の担当場所だけでなく裏方でも動いていたので感動しました。」など、多くの感想をいただき、子どもたちも自信になったことと思います。

さて、その続きです。年長組はお店閉店にあたり、最終的にどのくらいお客さんが来たのかを知りたくて、伝票の数やお支払いのお金の量を計算していました。報告を受けた園長先生から、何でも使える「プレミアムチケット」のプレゼントをもらい、歓声が上がります。そして、クラスで何に使うか話し合います。「クッキングをするからイチゴを買いたい」「ひじりんと一日遊びたいからそれに使いたい」などかわいい意見も飛び交います。「無添ゆり寿司」のゆり組は、プレミアムチケットで材料を買って本当のお寿司(ご飯に具材を混ぜたもの)を作ったようです。回転台に乗せて回っているお寿司をとって食べて満足そうでした。また、みんなで能勢に行きたいというクラスが、5日後にはそれを実現させていました。自分たちで話し合っただけで実現できるという経験が、生きていく力になります。「わくわくしてきた」と思わずつぶやく子どもたちの前進力に、こちらがわくわくさせてもらっています。

メロン組からの招待状

そして、年少組年中組はその刺激を受けて、自分たちで小さなお店を作っていきます。

早速、ジュースや焼きそば屋さん・ケーキ屋さんが始まります。スライムのジュースの作り方や色の合わせ方は年長組の子どもたちに聞きに行ったり、実際に作ってもらったり教えに来てもらう場面も。また、お客さんが来ると嬉しくて何人も迎えに行ったり、注文していないモノまで出てきたり、でもそんなお店を温かく見守って優しくアドバイスする年長組の子どもたちがいます。ケーキが出てきたら、「フォークがないよ」とそうっと優しく教えてあげるところは、自分たちがしてきたことの自信と余裕を感じさせます。年中組の焼きそばを焼く姿も本格的。伝票を記入する姿もうれしそうです。年長組のすることをよく見ていたのだらうと思う箇所があちこちに見られます。でも、年長組が話し合いを重ねながら創り上げたお店とは違って、思いつきと勢いでお店をすすめています。楽しくて仕方がない様子。もも組で焼きそばを食べているとステージでダンスが始まります。メロン組では、自分たちが作ったとても可愛いクリスマスの飾りや粘土のクッキーを、惜しげもなく売っていて、「本当にもらっていい



の？」と聞くと、お客さんが喜んでくれることが嬉しい様子でした。あちこちのクラスで「いらっしゃいませ～」の音が響きます。年長組のお店とはまた違う、勢いやわくわく感が伝わってきます。「楽しい」と思うことは遊びや活動の継続や深まりにつながっていきます。この「楽しくて仕方がない経験」が目標に向かって進む力になり、来年は様々な壁を乗り越えながら自信と誇りに溢れたお店屋さんプロジェクトを展開していくのでしょね。

各学年の担任たちは、毎月、クラスの子どもの写真を持ち寄り育ちを語り合うという会議をしています。これは日々のこどもの姿から、育ちを見出し、どのようなことが育っているのかを解釈し、それを次への計画につなげていくためです。そして、これは、保育者のこどもを理解する力の向上、そして保育力の向上につながっていきます。と聞くと堅苦しい勉強のように聞こえますが、子どもの育ちを語り合う時の先生たちは実に楽しそうなのです。こどもの姿を肯定的に捉え、育ちを嬉しそうに語り合うこの会議が私も大好きです。

うちの園の先生たちは、毎月このようなトレーニングをしているので、育ちを語るのが上手いです。後にも先にもこの子ども理解が、教育に携わる者にとって一番大切な力です。そしてそれを保護者の皆様だけでなく地域や小学校と共有し、理解して貰いたいと強く思っています。

新型コロナ感染が気になり、不安な年末年始になりそうですが、お体をご自愛くださりどうか良い年をお迎えください。3学期もよろしくお願いいたします。

毎月、写真を持ち寄り、育ちを語り合います

年少組



年中組



年長組

